

日本文学講座

[講座紹介] 古代から現代に至るまで書き伝えられ読み継がれてきた日本語になる文学の精華——いまを生きるわたくしたちの心をゆり動かす作品やその注釈の数々を、本文に即しながら、いきいきと読みほぐしていきます。

時間

土曜日 13:30~15:30

場所

文化センター
別館3階視聴覚教室

定員

80名

受講料

1,800円

回	日 程	テーマ (内 容) / 講 師
1	5月31日	<p>「狭衣物語をよみつぐー「道芝の露」と消えにし人ー」</p> <p>平安後期の作り物語『狭衣』は、『源氏物語』を旺盛に摂取してその作中世界が築きあげられています。今回は、当初から登場しながら巻一末尾で入水する女君をめぐる、作中に描かれたその生きかたを読みとります。</p> <p>講師 西 耕生 (愛媛大学法文学部教授)</p>
2	6月28日	<p>「本居宣長『古今集遠鏡』『美濃の家づと』を読む」</p> <p>国学者本居宣長の著作には、『古今和歌集』『新古今和歌集』を注釈した『古今集遠鏡』『美濃の家づと』があります。口語訳もあり、大変興味深い作品です。いくつかの歌を通して宣長の解釈を考えていきましょう。</p> <p>講師 清田 朗裕 (愛媛大学教育学部講師)</p>
3	7月19日	<p>「異本で読む平家物語ー〈実盛の最期〉ー」</p> <p>今回で13回目になる「異本で読む平家物語」では、齋藤実盛の最期を取り上げます。実盛は農村における「虫送り」の由来としても有名な人物です。今回も異本の比較によって見えてくることについてお話する予定です。</p> <p>講師 小助川 元太 (愛媛大学教育学部教授)</p>
4	10月4日	<p>「新居浜出身の俳人、本田三嶺子と品川鈴子の俳句人生について」</p> <p>本田三嶺子と品川鈴子は新居浜の俳人ですが、師匠筋が異なるため、作風が異なります。別子銅山等を詠んだ二人の句群を通じて作風の違いを検討し、また句の背景となった銅山風景や生活等も含めて鑑賞する予定です。</p> <p>講師 青木 亮人 (愛媛大学教育学部教授)</p>
5	11月8日	<p>「上田敏と堀口大樹ー訳詩の比較を通してー」</p> <p>西欧の詩を翻訳し、日本の詩歌に多大な影響を与えた上田敏と堀口大樹について、その訳詩を比較しながら、それぞれの翻訳方法の違いを明らかにし、背景にある翻訳観について読み解いていきます。</p> <p>講師 越智 隆浩 (愛光学園教諭)</p>
6	12月13日	<p>「漱石「坊っちゃん」と明治の文化誌 (2)」</p> <p>昨年度に引き続き、夏目漱石「坊っちゃん」を同時代読者の視点に立って解説します。日露戦争期の文学、明治の旧士族、西洋美術とマドンナといったテーマから読み解きます。</p> <p>講師 中根 隆行 (愛媛大学法文学部教授)</p>